

# 伊藤真也

## プロフィール

1979年	自治医科大学卒業 旭川医科大学小児科研修
1981年－1986年	北海道北部で地域医療に従事
1986年－1989年	旭川医科大学小児科
1989年－1994年	トロント小児病院 小児科 臨床薬理 Clinical Fellow
現在	トロント小児病院 小児科 臨床薬理主任部長 トロント大学 小児科・内科・薬理および大学院 教授 トロント小児病院 薬事委員会 委員長



## その他

- 小児科専門医（カナダ、日本）、臨床薬理専門医（カナダ、アメリカ）
- 米国 NIH・国立図書館 母乳と薬に関するデータベース（LactMed）監査委員
- **Clinical Pharmacology & Therapeutics** 編集委員

小児薬物副作用の遺伝的背景による個体差の研究や、乳腺の薬物トランスポーターの研究で知られ、140編以上の発表論文がある。特に授乳中の薬剤安全性についての業績が有名で、2000年に発表された *New England Journal of Medicine* の総説は、この分野の知見の現在の状況を概観するとともに、将来の研究へ重要な指針を与えた。トロントを中心に活動しているが、WHO や European Union のプロジェクトでも重要な役割を担っている。LactMed にはその開発から参画して、現在も内容の定期的監査を担当している。アメリカ臨床薬理学会誌 *Clinical Pharmacology & Therapeutics* の Associate Editor としても活動し、また日本では南山堂より出版された「薬物治療コンサルテーション：妊娠と授乳」の編集・執筆をおこなった。トロント小児病院では薬物副作用や相互作用の問題を抱えた入院・外来患者の診療などを通して薬の問題を幅広く追求している。近年はカナダの薬理遺伝研究ネットワーク (CPNDS) のトロント代表として薬剤副作用の遺伝子発見に貢献している。CPNDS が同定した副作用遺伝子として cisplatin 聴毒性に関わる TPMT, また anthracyclin 心毒性に関連する SLC トランスポーターなどがある。